Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中世後期イギリスにおける宗教文学の写本と読者に関する研究			
Sub Title	Manuscripts and Readers of Religious Writings in Late Medieval England			
Author	松田, 隆美(MATSUDA, TAKAMI)			
Publisher				
Publication year	2009			
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2008.)			
JaLC DOI				
	本研究は、14-16世紀に英語で書かれた宗教散文文学の一次資料である同時代の写本を研究対象とし、写本の編集方針やそこに残された読者の痕跡を調査し、未刊行資料については校訂テクストや書誌学的記述を整備することで、宗教散文が中世後期の読者によっていかに受容され、また受容を通じてテクストの性質が変容した様を具体的に明らかにした。さらにその結果を応用して、中世後期イギリス文学の諸作品を同時代の書物文化との関わりにおいて個別に分析して、作品のジャンル的特質を明らかにするとともに、文学史的に新たな位置づけをおこなった。			
	研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2006~2008 課題番号:18520236 研究分野:人文学 科研費の分科・細目:文学・英米・英語圏文学			
Genre	Research Paper			
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_18520236seika			

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6月 8日現在

研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2006~2008 課題番号:18520236

研究課題名(和文) 中世後期イギリスにおける宗教文学の写本と読者に関する研究

研究課題名(英文) Manuscripts and Readers of Religious Writings in Late Medieval

England

研究代表者

松田 隆美 (MATSUDA TAKAMI) 慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号:50190476

研究成果の概要:

本研究は、14-16世紀に英語で書かれた宗教散文文学の一次資料である同時代の写本を研究対象とし、写本の編集方針やそこに残された読者の痕跡を調査し、未刊行資料については校訂テクストや書誌学的記述を整備することで、宗教散文が中世後期の読者によっていかに受容され、また受容を通じてテクストの性質が変容した様を具体的に明らかにした。さらにその結果を応用して、中世後期イギリス文学の諸作品を同時代の書物文化との関わりにおいて個別に分析して、作品のジャンル的特質を明らかにするとともに、文学史的に新たな位置づけをおこなった。

交付額

(金額単位:円)

			(= = = - 13 /
	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	1,300,000	0	1,300,000
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	660,000	4,160,000

研究分野: 人文学

科研費の分科・細目:文学・ 英米・英語圏文学

キーワード:西洋中世文学、書物史、イギリス文学、西洋中世写本、電子テキスト、古文書学

1.研究開始当初の背景

本研究の対象である14-16世紀に英語で書かれた宗教散文テクストには、説教、 聖書や聖人伝のパラフレーズ、教訓逸話集を はじめとする教訓的ナラティヴ、キリスト教 道徳の手引き書、ディヴォーショナルな目的 を持った散文などが含まれる。現存する写本 数の多さから判断する限り、こうした宗教散 文が中世後期の英文学の重要な一部分であることは明らかだが、未だに未刊行のテクストも多く、作者や成立事情に関しても不明な点が多い。ゆえに宗教散文の研究に際しては、それらが含まれている写本の特徴や読者層に注目して、写本間の違いに着目しつつ、テクストが「読書の文脈」によっていかなる解釈と機能を付与されて受容されていたかに焦点をあてることが有効である。

中世写本研究には長い伝統があるが、写本 生産の技術的な側面に注目した書誌学研究 が主流であった。また、中世文学研究におい て同一作品の複数の写本を比較検討するこ とは基本であるが、その目的は、作者の意図 をもっとも忠実に反映していると推察され る「最良の」テクストを同定することにあっ たため、個々のテクストを写本のコンテクス トから切り離して相互比較することが多か った。

しかし近年では、作者の意図をさぐること よりもテクストが読者によっていかに受容 されてきたかに注目し、個々のテクストを具 体的な書物文化のなかに位置づける研究が 生まれている。書物生産に実際に関わる写本 の編纂者や写字生、印刷者は、以前は作者の 意図を不完全ながらも具現化する存在と理 解されてきたが、近年ではむしろ、彼らをテ クストの最初の読者とみなして、後の読者に 対しての指標となるような具体的な読書の 痕跡を写本や初期印刷本の紙面に残してい るととらえ、それらを積極的にテクスト解釈 や受容研究に反映させてゆこうとしている。 宗教散文文学には未刊行のテクストがまだ 相当存在しており、個々の写本や作品の基礎 調査もいまだ不十分なため、そうした書物文 化史的研究は一次資料の整備と並行して進 められる必要があるのである。

2.研究の目的

本研究が研究対象とする14-16世紀に英語で書かれた宗教散文テクストの初期の読者の痕跡は、写本の編纂方針、ページレイアウト、挿絵、欄外書き込みなどのかたちで、写本の上に残されている。本研究は、それらを積極的にテクスト解釈の資料として活用し、読者と写本編纂の視点からテクストを読み直すことで、テクストを、作者によって固定化された静的なものではなく、その伝播の過程や読者の受容形態によって常に変化する動的なものととらえ、中世後期の宗教文学の特質を、その時代の書物文化史との関わりにおいて明らかにすることを目的とする。

また、本研究の対象である中世後期の宗教 散文文学には、未刊行のテクストがまだ相当 存在しており、個々の写本や作品の基礎調査 もいまだ不十分である。そうした研究状況を 考慮して、成果を論文のかたちで刊行するの みならず、写本の目録や未刊行テクストの校 訂版を作成して、基礎データを整備すること も重要である。本研究では、テクスト校訂に おいて近年活用され始めている XML(eXtensible Mark up Language)文書のか たちで一次資料を系統的に蓄積することで、 研究環境を整備することをあわせて目的と する。

そうして蓄積した写本に関する書誌記述 や未刊行テクストの校訂版を活用して、書物 文化史と文学史の視点から中世後期のイギ リス文学について個別研究を推進する。まず、 中世イギリスの宗教文学の全体像を、現存す る写本の特質に注目して描き出す。その全体 像を基盤として、同時代のナラティブ文学 (ヴィジョン、ロマンス等)や宗教劇などの 隣接するジャンルの作品を、宗教文学との関 連で新たに中世文学史の中に位置づけ直す ことを目的とする。

3.研究の方法

本研究は、(1)未だ先行研究が乏しい宗教 散文文学の写本に関してチェックリストを 作成し、その内容に関して詳しい記述を作成 する基礎的な書誌資料作成、(2)それらの写 本に含まれる未刊行の宗教散文テクストの トランスクリプションと校訂、そして、(3) そうして整備された資料を活用してなされ る、中世イギリス文学作品を対象とした文学 史・書物文化史的研究で構成され、写本研究 と書物史の方法論、デジタル校訂法、文学史 の方法論を統合的に用いておこなわれる。1 4-16世紀に制作された英語の宗教文学 写本のなかから、(1) 写字生による欄外書き 込み(挿絵類を含む)が一貫してみられる写 本、(2) 単一写本のなかに宗教的な散文テク ストを中心に複数のテクストを含んだ、 miscellany 写本の2種類を特に調査対象と する。こうした写本の具体的なコンテンツに ついては正確な記述が未だなされていない ものが多いからである。写本を精査した結果、 そのなかの英語の宗教散文テクストに関し て「コンテクストの比較研究」を行う。それ ぞれの写本のコンテクスト - 直前、直後のテ クストとの関連、写本編纂における編纂者の 意図、挿絵とテクストの関係など - を写本間 で比較検討し、同じテクストが異なった写本 の文脈で、いかなるジャンル的期待をもって 受容されているか、いかなる読者層を想定し て作成されているかを明らかにする。未だに 学術的校訂版が作成されていない未刊行散 文テクストのなかから、特に、複数の英語及 びラテン語テクストを典拠として書かれた 「抜粋集」(compilatio)的な構造をもったテ

クストを対象として、XML によるデジタル校 訂をおこなうとともに、テクストの典拠を調 査する。こうして構築された書誌資料と一次 文献を活用して、中世後期英文学の様々なテ クストに対して書物文化史的視点から分析 をおこない、未だ全体像が正確につかめてい ない宗教散文文学の特色を明らかにすると ともに、中世文学におけるジャンル研究の方 法論を参考にしつつ、個々の作品が、その写 本のコンテクストによってジャンル的にも 規定されうることを個別研究を通じて具体 的に示す。

4. 研究成果

(1) 中世後期イギリスの宗教文学に関する 写本および未刊行テクストの精査

主要な研究対象として、14-15 世紀に制作 された英語による宗教文学 miscellany 写本 4点 - Oxford, Bodl. Libr. MS Rawlinson C. 894; Douce 322; London, BL MS Royal 17.C.18; Harley 1706 - を選出し、これらに ついてこれまでの予備調査をふまえて、その 内容の詳細なチェックリストを作成した。特 に、Bodl. Libr. MS Rawlinson C. 894 写本 とそれと緊密な関係にある London, BL MS Royal 17.C.18 の2写本については、写本編 纂者(compilator)の手になると思われるテ クスト間のルブリカ、写字生あるいは同時代 の読者による欄外書き込みなどを調査し記 録すると共に、この2写本に共通して含まれ る英語の宗教散文テクスト、擬ベルナルドゥ ス作 Meditationes piissimae de cognitione humanae conditionis の中英語テクストを、 1 6 世紀の Wynkyn de Worde の刊本テクスト とも比較しつつ転写し、デジタル校訂をした。 また、同時期の2点の宗教文学アンソロジー 写本 Oxford, Bodl. Libr. MS Douce 322;

London, BL MS Harley 1706 に関して、写本の欄外書き込み、ページレイアウト、挿絵、頭文字などのパラテクスト要素に注目して調査をおこなった。

さらに、英語によるヴィジョン文学を数点 含んだ 15世紀の宗教文学写本 London, B. L. MS Add. 34193 に関して写本に含まれる テクストのチェックリストを作成するとと もに写本の編集方針をルブリカや作品の内容から分析した。

こうした写本のコンテンツと流通のコン テクストに関する詳細な基礎調査の結果を ふまえて、以下のような応用研究をおこない、 それぞれ成果として発表した。

(2) 中世後期イギリス文学を対象とした、書物文化史的視点に基づいた応用研究

中世後期の宗教散文のうち特に多くの写本に見いだされる神秘主義的テクストに注目し、それらが15-16世紀において、俗信徒を対象とした「実践と観想の生活」(mixed life)の勧めとして活用されてゆく過程を、写本のコンテクストおよび聖人劇などの関連ジャンルのテクストとの比較を通じて明らかにした。中世後期の宗教的心性が写本や初期印刷本の編集方針に具体的に反映されていることを証明することで、書物史的方法論が文学史研究に具体的に寄与することを示した。

London, B. L. MS Add. 34193 をはじめ複数の写本に含まれる宗教ヴィジョン文学、St Patrick's Purgatoryに関して、14-15世紀の現存する複数のヴァージョンを比較し、さらに本作品を14世紀のロマンス Sir Gawain and the Green Knight のサブテクストと位置づけることで、宗教的な死後世界探訪譚と騎士道ロマンスの間の接点を具体的に指摘し、ヴィジョン文学の中世後期におけ

るジャンル的広がりを明らかにした。この研究をさらに発展させて、London, B. L. MS Add. 34193 に含まれる複数の英語によるヴィジョン文学に関して、これらに共通する中世後期特有の異界意識を論じ、この写本を、中世末期に「新たな死後世界文学」として編纂されたアンソロジーとして捉える視点を指摘した。

中世後期イギリスの様々な宗教文学をそ の写本のコンテクストを精査し、またテクス ト間の比較を明らかにすることで検討した 結果、文学史的視点から中英語の宗教文学の 全体像を記述することができた。中英語の宗 教文学については、一部の神秘主義文学や Ancrene Wisse のような初期中英語の修道院 文学については盛んに研究されているが、そ れ以外については、その現存する写本の多さ にも関わらず系統的な研究が未だ不十分で ある。研究代表者は宗教文学をキリスト教教 化文学、ヴィジョン文学、寓意文学、宗教抒 情詩などのジャンルに分けて、その文学史的 展開と写本について総括的にまとめた。研究 代表者が共同執筆・編集した『中世イギリス 文学入門』のなかにまとめられたこれらの論 考は、中世イギリスの宗教文学に関する日本 語による初めての総括的な記述である。

以上のような個別研究と並行して、本研究 の方法論の意義と応用可能性について、以下 のような視点を確立し発表した。

(3) 書物文化史的方法論の意義と重要性

本研究における書物文化史的アプローチを中世イギリス文学研究史の視点から整理し、書物文化史がキリスト教教化文学のみならずチョーサーのような世俗文学の分析にも活用可能なことを、今後の研究の方向性に関する提言とともに論文にまとめた。また、本研究の基本である写本の文脈研究が、将来

の中世文学研究において、読者の視点を考える上で重要な方法論であることを学会において発表した。書物文化史を文学研究の一方法論として考えるとき、その理念的基盤は1980年代の受容理論に遡ると考えることが可能である。そのような視座に立って、中世イギリス文学の研究史を1980年代から現在まで具体的に検証し、そのなかで書物史と写本研究が果たしつつ役割を指摘し、この方法論が将来の学際的な西洋中世研究のためにも重要な可能性を持っていることを指摘した。

また、本研究で調査対象とした中世後期の写本及び15-16世紀の初期刊本のなかには、研究代表者の所属機関である慶應義塾図書館に収蔵されている資料もあったが、それらについては詳細な書誌記述と解説を展示会の図録のかたちで刊行する機会を得た。図書館の企画というかたちで、図録刊行と資料展示によって本研究にかかわる一次資料の一部を一般公開できたことは有意義であったと考える。

以上のように、本研究では、(1) 宗教文学 写本の精査と未刊行テクストのデジタル校 訂による一次資料の整備、(2) 中世イギリス の宗教文学および関連テクストを対象とし た書物文化史・文学史的応用研究、(3) 本研 究で実践した方法論の中世研究および文学 研究全体ににおける有効性と意義の検証と いう3つの点において成果を挙げた。

5 . 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

松田隆美(MATSUDA, Takami), "Le Compost et kalendrier des bergiers (Paris, 1497) - A Preliminary Description "『藝文研究』第 95 号 (2008), 550 579 [査読無し]。

松田隆美(MATSUDA, Takami), "Sir Gawain and the Green Knight and St Patrick's Purgatory", English Studies 88(2007), 497 505 [査読有り]。

松田隆美「テクストからコンテクストへ - 中世英文学研究と現代」*Studies in Medieval English Language and Literature* 21(2006.11), 21-28 [査読有り]。

[学会発表](計2件)

松田隆美「マグダラのマリアと mixed life 中世末イングランドの霊性」日本英文学会第 80 回大会 シンポジウム「ヨーロッパ中世の神秘主義 霊性とナラティヴ」。 2008 年 5 月 24 日。広島大学。

松田隆美「中世文学研究とディシプリン」日本英文学会関東支部 2007 年 4 月例会 シンポジウム「英文学研究のディシプリンとは?」。2007 年 4 月 15 日。東京大学駒場キャンパス。

[図書](計3件)

松田隆美・原田範行・高橋勇(編著) 『中世主義を超えて-イギリス中世の発明と受容』慶應義塾大学出版会、 2009年3月。 pp. xviii + 426(「ヴィジョンからアレゴリーへ 死後世界の断片化と中世の終わり」 pp. 27 51 執筆)。 高宮利行、<u>松田隆美</u>編『中世イギリス 文学入門 研究と文献案内』雄松堂出版、2008年12月。pp. 454(pp. 11-28, 77-88, 95-101, 175-179, 187-191, 261-266, 309-316, 365-366, 395-398。

佐々木孝浩、住吉朋彦、<u>松田隆美</u>『義塾図書館を読む - 和・漢・洋の貴重書から - 』慶應義塾図書館、2007年1月。 pp. 206 (pp.93 205 執筆)。

6.研究組織

(1)研究代表者

松田 隆美(MATSUDA TAKAMI) 慶應義塾大学・文学部・教授 研究者番号:50190476

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し